

三菱電機 **ビル用** エアコン 圧力計

形名
PAC-KS66PG

取付説明書

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。
※ 一般的な熱源ユニット据付けに関する内容は、熱源ユニット本体に添付の据付説明書に従ってください。
・ この製品は国内専用です。日本国外では使用できません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

WT08424X01

安全のために必ず守ること

- ・この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ・ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度



注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- ・図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(接触禁止)



(水ぬれ禁止)



(一般注意)



(感電注意)



(高温注意)



(一般指示)

- ・お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ・お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

一般事項

警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- ・使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- ・法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。

指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。



禁止

特殊環境では、使用しないこと。

- ・油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

ユニットの据付・点検・修理をする前に周囲の安全を確認し、子どもを近づけないこと。

- ・工具などが落下すると、けがのおそれあり。



禁止

改造はしないこと。

- ・冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- ・冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



やけど注意

換気をよくすること。

- ・冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- ・冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



換気を実行

⚠ 注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ◆ 回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- ◆ 運転停止から5分以上待つこと。
- ◆ ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



禁止

部品端面に触れないこと。

- ◆ けが・感電・故障のおそれあり。



接触禁止

電気部品を触るときは、保護具を身に付けること。

- ◆ 高温部に触れると、火傷のおそれあり。
- ◆ 高電圧部に触れると、感電のおそれあり。



けが注意

作業するときは保護具を身につけること。

- ◆ けがのおそれあり。



けが注意

据付工事をするときに

⚠ 警告

梱包材は破棄すること。

- ◆ 窒息事故のおそれあり。



指示を実行

販売店または専門業者が取付説明書に従って取り付け工事を行うこと。

- ◆ 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

冷媒が漏れた場合の限界濃度対策を行うこと。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
(ガス漏れ検知器の設置をすすめます。)



指示を実行

配管工事をするときに

⚠ 警告

フレアナットは規定のトルクで締めること。

- ◆ 損傷により冷媒漏れ・酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

冷媒が漏れていないことを確認すること。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- ◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



指示を実行

移設・修理をするときに

⚠ 警告

移設・修理をする場合、販売店または専門業者に依頼すること。分解・改造はしないこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

修理をした場合、部品を元通り取り付けすること。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

お願い

据付・点検・修理をする場合、適切な工具を使用してください。

◆工具が適切でない場合、機器損傷のおそれあり。

工具類の管理は注意してください。

◆チャージングホース・フレア加工具にほこり・ゴミ・水分が付着した場合、冷媒回路内に混入し、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

1. 部品

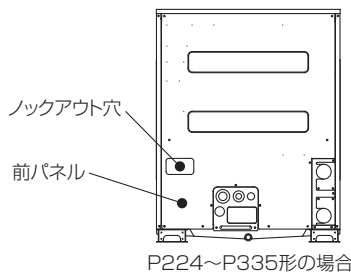
この箱には、説明書の他に下記部品が入っています。作業を始める前にご確認ください。

品番	品名	個数	備考	品番	品名	個数	備考
①	圧力計※	1	高低圧一体型	⑦	シリコンチューブ	1	P355～P670形用
②	ネジ	4	5X12	⑧	結束バンド	5	P224～P335形：4個、P355～P670形：5個
③	配管	1	高圧側 φ2 (赤マーク付)	⑨	のぞき窓	1	
④	配管	1	低圧側 φ4	⑩	取付ゴム	1	
⑤	取付け板	1	P224～P335形用	⑪	配線結束バンド	2	P355～P670形用
⑥	取付け板	1	P355～P670形用				

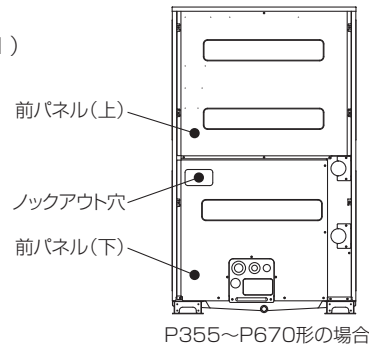
※圧力計の測定範囲：高圧側 0～6MPa 低圧側 0～4MPa

2. 取付要領

(1) ユニットの運転を停止した後、前パネルを取外してください。(図1)



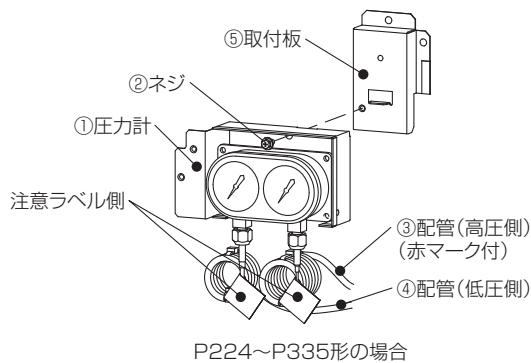
P224～P335形の場合



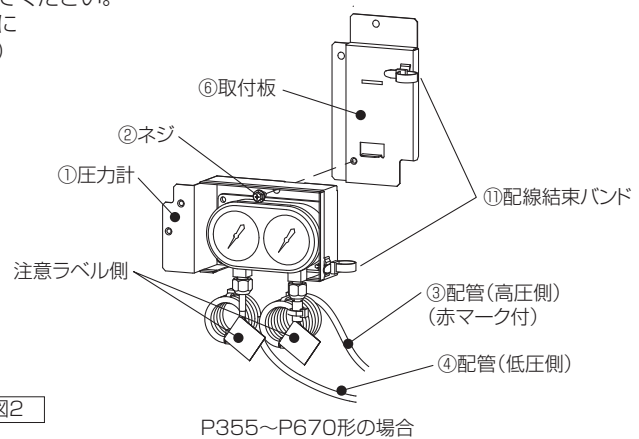
P355～P670形の場合

図1

(2) 圧力計上部に品⑤⑥取付け板を品②ネジ（1個）にて固定してください。また、P355～P670形の場合のみ圧力計右横と⑥取付け板に品⑪配線結束バンド（2個）を取付けてください。(図2)



P224～P335形の場合



P355～P670形の場合

図2

- 圧力計をユニットに固定する前に部品③④配管の注意ラベル側を部品①圧力計にフレア接続してください。フレア接続部に、冷凍機油（エステル油・エーテル油・少量のアルキルベンゼンのいずれか）を塗布してください。（締付トルク $16 \pm 2 \text{ N} \cdot \text{m}$ ）(図2)
- P224～P335形はユニットマエイタとユニット左パネルに部品①圧力計を部品②ネジ（3個）にて固定してください。(図3) P355～P670形はユニットマエイタとユニット柱に部品①圧力計を部品②ネジ（3個）にて固定してください。(図3)
- 部品③④配管の圧力計反対側を高・低圧側のチェックジョイントにフレア接続してください。フレア接続部に、冷凍機油（エステル油・エーテル油・少量のアルキルベンゼンのいずれか）を塗布してください。この時、ネジ部への浸水防止を目的にチェックジョイントのネジ部にシーラ材（スリーボンド1110D）を塗布してください。（締付トルク $20 \pm 2 \text{ N} \cdot \text{m}$ ）(図3)
- 高圧・低圧キャピラリーの余剰部を圧力計側とし、余剰部は1ループ逃がして部品⑧結束バンドで固定してください。(図3) P224～P335形のみ、図を参考に③④配管を⑧結束バンドで固定してください。P355～P670形のみ、図を参考に高圧側のジョイントに品⑦シリコンチューブを巻き付けて、品⑧結束バンドでキャピラリー配管のビニールチューブ被覆部に固定してください。また③④配管の隙間を10mm以上としてください。
- 圧縮機配線、電源配線、アース線（P355～P670形のみ）は、図を参考に③④配管に接触しないよう配線してください。(図4) P355～P670形のみ、圧縮機配線とアース線は、コテイイタ背面の結束を取外し（図4「圧力計取付前の状態」）、図中注記※1、※2に従い圧力計横の⑪結束バンドに固定、電源配線は図中注記※3に従い結束バンド2箇所固定してください。
- エアページを行うには圧力計側のフレアナットを少し緩め、その接続部よりシューッというエア抜き音を確認したら直ちに本締めしてください。ガス漏れのないことを確認してください。
- 前パネルのノックアウト穴を打ち抜いて、部品⑨のぞき窓、部品⑩取付ゴムを取付けてください。(図5)
- 前パネルを取付けてください。

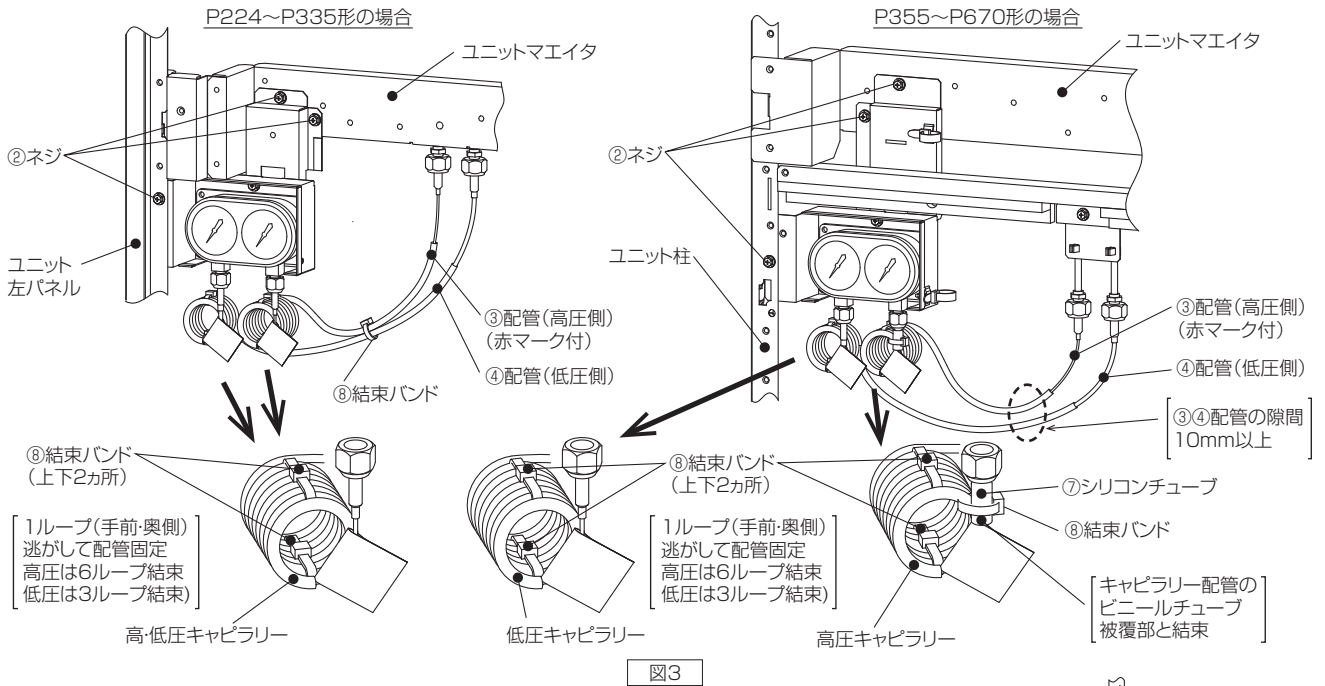


図3

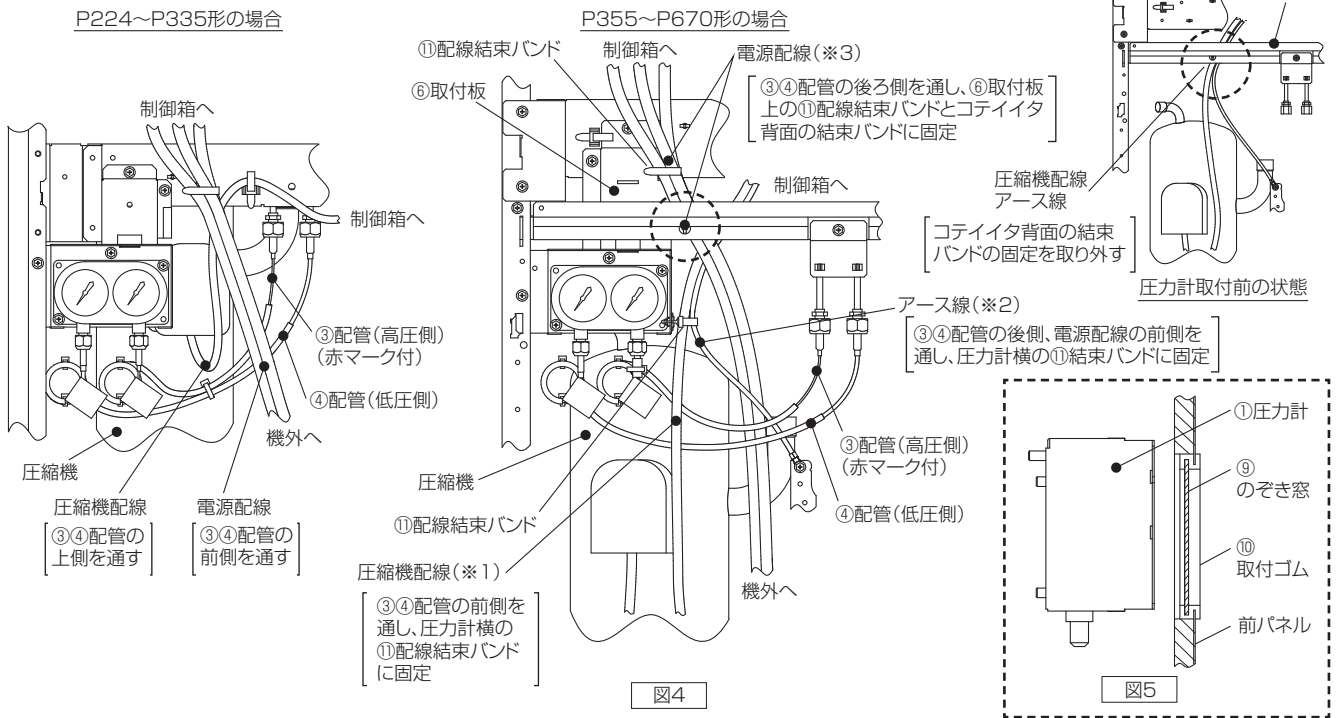


図4

図5

お願い

- (1) 圧力計の配管を板金のエッジや他の配管、配線に接触させないでください。
- (2) 上記(6)の作業は確実に行ってください。不備があると配管折損によりガス漏れの原因となります。また、高・低圧側キャピラリー、特に高圧側キャピラリー両端の溶接部を過度に変形させないでください。

3. 取付工事後の確認

- ・取付後に作業にもれがないかもう一度確認してください。

4. お客様への説明

- ・お使いになる方に正しい使い方をご説明ください。
- ・お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- ・「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- ・この取付説明書は、取付け後、お使いになる方にお渡しください。
- ・お使いになる方が代わる場合、この取付説明書を新しくお使いになる方にお渡しください。

三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)
 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66冷熱システム製作所

WT08424X01